

富山第一高等学校

令和6年度 学校総合評価

重点課題に関する総合評価

今年度も8つの重点課題を掲げ取り組んだ。A評価は3つで、残りの5つがB評価であり概ね目標は達成できたと考えている。

数年前から取り組んでいるICTの活用、各教科の評価方法など、少しずつ浸透してきてはいるが、教員のスキル格差、認識不足をはじめとして不十分な側面も見える。今年度は総合的な探究の時間を1つの教科と捉え、探究科主任を置き3か年を見通したカリキュラムの編成に取り組むとともに、2学年において連携校の支援を得て高大連携PBLを実践した。

生徒たちの多様な価値観を尊重しつつも、集団の中で生活するための基本的な生活習慣や規範意識の定着に取り組む必要を感じており、その指導を継続している。一方で生徒の主体性を育むべく、生徒会では定期的に生徒議会や委員会を開催するなど、生徒会活動の活性化に力を注いだ。

全校生徒が個人端末を持ち、学習課題や大学等の入試情報、学校行事に関する連絡などの迅速な発信に役立っている。保護者、生徒に対する学校からの情報発信や緊急連絡に加え、生徒の欠席連絡への利用も定着してきた。また、教員間の情報共有にslackを活用するなど、校務の遂行にもICT活用が進んでいる。

教員のスキルアップのための今年度の新たな取り組みとして、高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)に応募し採択されたため、施設設備を充実させ、その活用に向けた教員研修を行った。また、近年の豪雨、台風、大雪などの自然災害に備え、オンライン授業を視野にオンラインデーを実施した。

次年度への課題と方策

生徒の持つ1人1台の端末の活用が進みつつあるとはいえ、本来最も活用すべき学習用のツールとしての役割はまだ不十分である。授業の中でも、家庭学習においても、教育の向上に繋がる効率的な活用に向けた教員の一層の努力が求められる。また、高等学校DX加速化推進事業に対する取り組みも継続し、施設設備の有効活用を進めなければいけない。

ICT活用が進む中、連絡ツールに頼り過ぎ、人間関係が希薄になってはいけない。直接対話をすることの重要性を今一度考えたい。教育の場において、生徒同士、生徒と教師のコミュニケーションは必要不可欠であり、毎学期設けている面談週間の有効活用や、学校行事における協働作業をさらに充実させたい。総合的な探究の時間におけるグループ活動やその発表などは、そうした意味でも重要な役割を果たすものと考えている。

学校教育計画(アクションプラン)

重点課題1 学習活動	
目 標	①ICTを活用した授業および家庭学習の定着 ②本校の実態に即した評価方法の確立
方 策	①昨年度と同様、Google Classroomを積極的に活用する。課題の提出や考査範囲の確認など、生徒の積極的なタブレット利用を推進するとともに、Meet

	<p>などによるオンライン授業やスタディサプリ、Classi の動画配信など教員の ICT スキルの向上を目指す。</p> <p>②今年度、全学年が新課程になる。第 1・2 学年は前年度の評価方法の改善すべき点を洗い出し、本校の現状に即したものになるように検討する。第 3 学年は 1・2 年次の評価方法を踏まえ、他校の情報を収集し、本校の実情に応じた評価方法を考える。</p>
達成度	<p>①教員が個人端末（タブレット）を所持するようになって 4 年目となる。授業での利用はかなり浸透してきていると思われる。しかし、個人差があり、その影響が授業にも表れている。</p> <p>②教員の中にはまだ「観点別評価」や「コース別評価点の目標」についての理解が不十分な人もおり、完全に共通理解を図るにはまだ時間を有するようである。また、学習態度 C をつけられる生徒が複数いたが、生徒指導部の案件なのか、教務部の案件なのかを見極める必要がある。</p>
具体的な取組状況	<p>①オンラインデーを 2 回（7/8, 12/5）実施したことにより、様々なことがわかった。これをきっかけにして、災害時や学級閉鎖時にオンラインで授業ができるように、さらなる教員のスキルアップが必要である。</p> <p>②評価の仕方について、個別に声をかけ、認識を変えてもらうように促した。また、学習態度 C については、ガイドラインを作成する。</p>
評価	B
次年度への課題	<p>①次年度もオンラインデー（7 限）を設け、教員の ICT スキルの維持を図る。</p> <p>②カリキュラム検討委員会を設置し、各コースの特色を生かしたカリキュラムの編成を検討する。</p>

重点課題 2 探究活動

目標	3 年間を見通した総合探究のカリキュラムを編成し、その実践を通して生徒の課題解決能力を育む
方 策	<p>①生徒が自らの興味・関心に基づき探究課題を設定し、仮説に基づいて協働で探究を進める探究活動を設計・実践する。</p> <p>②生徒が自分の視点で社会課題を見つめ、課題を解決するためにビジネスプランを創出する探究活動を設計・実践する。</p> <p>③高大連携活動を発展させ、大学の学問領域にもつながるプロジェクト型学習 PBL の探究活動を設計・実践する。</p>
達成度	<p>①概ね実践することができた。</p> <p>②2 学年で実践したが、創造的なプラン創出に至る発表は少なかった。</p> <p>③連携校の支援を得て、高大連携 PBL を 2 年生対象に実践した。</p>
具体的な取組状況	<p>①大学から与えられた大テーマや自身の興味・関心に基づく仮説設定をプロセスとして含む協働的な探究活動を実践することができた。</p> <p>②2 学年ではアントレプレナーシッププログラムの高校生 Ring を実践し、探究活動の成果を文化祭で発表した。</p> <p>③連携校の支援を得て PBL を 2 年生対象に実践した。探究の授業時数不足、指導方法の共通理解不足、生徒の意欲等に課題が生じた。</p>
評価	A
次年度へ	①興味・関心の幅を広げること、広く社会に目を向けた課題設定をどのよう

の課題	<p>にして促すのが課題である。</p> <p>②アイデア発想の方法を学ぶことが、生徒・教員の双方に必要である。</p> <p>③中間発表までの授業数領域を一定数確保し、高大連携 PBL がより充実するよう、2 学年の探究計画を見直す。</p>
-----	--

重点課題 3 学校生活（第 1 学年）

目 標	高校生活の土台としての基本的な生活習慣の確立
方 策	<p>①「爽やかな挨拶」ができるように、学年全体に呼びかけ、特に朝の HR で挨拶ができるようにする。</p> <p>②「品位ある身だしなみ」が身に着くように、頭髪服装検査等を活用し、学年全体で身だしなみに関する指導に取り組む。</p> <p>③「時間を守る」生徒を目指し、5 分前行動を意識した行動を促す。</p>
達 成 度	<p>①1 学期は概ね達成できたが、2 学期以降は思うような成果があらなかった。</p> <p>②年間を通して、問題のある生徒は多くなかった。</p> <p>③特に冬期間は遅刻者が多く、課題が残った。</p>
具体的な取組状況	<p>①特に 1 学期は担任の先生方を中心に学年全体で爽やかに挨拶を交わすことをお願いした。</p> <p>②服装頭髪検査では、検査のときだけでなく日常生活において、身だしなみを整えることを伝えた。</p> <p>③朝の始業に間に合うように、余裕をもって登校するように促した。</p>
評 価	B
次年度への課題	<p>①年間を通して、儀礼的ではない、挨拶が交わせるように、教員から積極的に挨拶できるようにしたい。</p> <p>②研修旅行に向け、品位ある身だしなみを継続して指導したい</p> <p>③「時間を守る」ことが信頼を得ることにもつながることを繰り返し伝え、重要性を理解した上で指導したい</p>

重点課題 4 生徒指導

目 標	<p>①公共交通機関利用マナーの向上及び自転車運転ルールの徹底</p> <p>②すすんで挨拶ができる生徒の育成</p> <p>③地域の状況、社会常識、時代の進展などを踏まえた校則の確立</p>
方 策	<p>①校前指導を行う。</p> <p>②「さわやか運動」では、生徒会、保護者、地域住民と連携した挨拶運動を推し進める。また、乗車指導を行う。</p> <p>③学年集会などで公共交通機関利用マナーを訴え意識喚起を行う。</p> <p>④交通安全指導の日を設け、通学路に出向き、交通指導を行う。</p> <p>⑤生徒会と連絡を密にし、生徒自らが校則と向き合えるよう取り組み、生徒が主体的に校則を守るような土壌作りを行う。</p>
達 成 度	<p>①今年度の交通事故件数は 22 件であり、昨年度と比較して若干増加した。以前よりは減ったものの自転車の乗車マナーや公共交通機関の利用マナーに関する苦情がまだ寄せられている。生徒のマナーアップを推進したい。</p> <p>②さわやかな挨拶をする生徒が多い。ただ、挨拶ができない生徒も若干見受</p>

	けられる。 ③校則の見直しを図っているが、その基礎となる生徒自らがルールを遵守する心を涵養していかなくてはならず、まだ道半ばであると言える。
具体的な取組状況	①昨年度に引き続きさわやか運動を保護者や地域の方々と連携して行った。 ②機会を見て乗車指導を行った。 ③校則の見直しに関して会議等で話し合う機会を設けた。
評価	B
次年度への課題	①SNS 危険防止研修会を生徒対象に実施する。 ②さわやか運動などを契機として挨拶の重要性を薫陶する。 ③校則を生徒自身が我がこととして捉えられるように働きかける。

重点課題5 生徒会活動・特別活動

目 標	委員会活動や学校行事，ボランティア活動等を通して，主体的に活動できる生徒を育成する
方 策	①委員会活動において，委員主体で計画立案や役割分担について話し合い，実践させる ②文化祭や体育大会など学校行事の事前活動において，生徒が見通しを持って主体的に活動できるよう支援する ③ボランティア活動についての情報発信を充実させる ④部活動加入を促し，人間関係形成や自己実現を図ろうとする態度を育てる
達成度	①各委員会で前期・後期に会議を開催し，活動計画を立て委員主体での活動に取り組んだ。 ②各行事において，生徒が主体的に活動できた。 ③随時，Classi による情報発信を行えた。 ④4月上旬に新入生部活動紹介の動画作成等を工夫し，勧誘を行ったが，4月末現在の部活動加入率は51.2%に留まった。
具体的な取組状況	①生徒会長選挙や生徒議会が行われ，生徒会活動が活発化した。昨年度より継続活動してきた校則の見直しに向けた意見を集約した。 ②行事の事前準備の時間を確保し，内容が充実してきた。 ③毎年の活動に加え，地域と連携し「ちいちか。新庄北ぼらんていあ部」に参加した。 ④春はポスター掲示等で部活動加入を促した。夏，秋は Classi で大会応援の参加を促した。冬は立志（生徒会誌）で活動報告を行った
評価	B
次年度への課題	①部活動加入率が低下している。 ②学業に加え様々な活動に参加し，生徒が成長できるよう，支援することが必要である。

重点課題6 保健指導

目 標	①生命を尊重し，生涯にわたり自らの健康を管理できる生徒の育成 ②感染症予防対策の実践力の向上 ③学内の衛生環境の改善
方 策	①保健委員会としての活動を通じて，生徒が主体的に健康を管理できる資質

	を養う。 ②感染症予防や衛生環境の重要性について、保健だよりや委員会活動などを通じて啓発活動を継続する。
達成度	概ね達成できた
具体的な取組状況	①委員会活動を通じて、主体的に健康管理ができるようになってきた。 ②保健だよりを通じて啓発活動を実践できた。
評価	A
次年度への課題	生徒が自らの健康問題を主体的に判断して行動できる力（自己管理能力）を高める

重点課題7 進路支援

目 標	①入試改革に伴う入試制度及び大学入学共通テストの情報収集と分析、生徒への発信 ②動画配信等、オンライン教材の活用による生徒の基礎学力の向上 ③多様化する入試情報の迅速かつ正確な発信
方 策	①大手予備校からの情報や各種学校説明会に参加して得た情報を取捨選択し、各学年の担任に校内 LAN などを活用して適宜配信し、情報の共有を図る。 ②各種学校や業者から送付されてきた資料は、校内 LAN を活用し、担任を通じて生徒に配布できる環境を整える。 ③各学年に応じた適切な情報を配信する。 1 学年：2 年次に選択する系の情報に加え、1 年次から受験を意識できるような情報の提供 2 学年：各種学校の設置する学問分野の情報に加え、入試制度に関する情報の提供 3 学年：志望校決定の参考になる情報や入試制度および昨年度の状況に関する情報の提供 ④生徒の進路志望調査をもとに、複数の教員が共通理解を持ち、進路実現につながる指導を行う。 ⑤スタディサプリを利用し基礎学力の向上を図る。 ⑥動画配信を利用した大学の講義を見たり、大学の教員と直接話したりすることによって、志望進路の具体化につなげる。 ⑦受験に関する様々な事項のオンライン化に対応し、情報提供を行う。
達成度	Classi を用いた生徒への情報発信、校内 LAN や slack を利用しての教員への情報発信など、情報提供や共有は概ねできた。
具体的な取組状況	①大学入学テストの情報は Classi を用いて3年生全体に配信した。 ②スタディサプリを授業の課題等で利用している教科があった。 ③各学校からの情報を「進学通信」として slack を用いて配信した。 ④前年度の進学指導のノウハウを継承するため、「進学指導に関する担任意見交換会」を実施し、過去の合否状況の追跡調査を提示した。
評価	B
次年度への課題	①生徒の進路志望調査の有効活用を図る。 ②受験レポートなどの資料のタブレット端末での活用を促進する。

重点課題 8	情報発信
目 標	①在校生とその保護者に向けた迅速な情報発信による、本校への理解と信頼の構築 ②受験生（中学生）とその保護者に向けた本校の特色や魅力の発信
方 策	①在校生とその保護者に向けて、充実した学校生活を送るために必要な情報をタイムリーに発信し、生徒・保護者・学校が一体となった教育活動を実践する。 ②受験生（中学生）とその保護者に向けて、本校の特色や魅力が十分に伝わるように内容や表現を工夫するとともに、最適な手段を利用して情報を広く外部に発信する。
達 成 度	①各部署，担任，授業担当者が，Classi やクラスルーム等の連絡手段を効果的に活用して，在校生とその保護者に必要な情報を迅速に発信した。 ②多様な情報伝達手段を用いて，受験生や保護者に本校の特色や魅力を伝えた。
具体的な 取組状況	①学校紹介動画を作成して，中学校における説明会で活用した。 ②学校公式 Instagram を開設して，学校の日常や学校行事の様子などを定期的に発信した。 ③オープンハイスクールでは，在校生徒や卒業生，保護者の協力により，本校の特色を中学生に紹介した。 ④定期的に学校通信を中学校に送付して，教育活動を中学生に紹介した。 ⑤ミライコンパスの登録者に対して，メールにて秋のオープンハイスクールの案内や学校紹介チラシを送った。 ⑥総務部会議を定期的に開催して，生徒募集対策や業務について見直しや改善を図った。 ⑦行事終了後に，教職員にアンケートを取り，総務部内で問題点を共有した。
評 価	A
次年度への課題	①業務の集中による負担を軽減するために，1つの業務を複数の教職員が担当する体制を構築する。 ②業務のマニュアルを作成し，総務部内で業務内容や手順を共有する。 ③在校生や保護者，中学生からも積極的に情報収集し，様々な手段で教育活動の魅力を外部に発信する。